NEC Express5800 シリーズ

Windows Server® 2008 Standard ／ Windows Server® 2008 Enterprise

カスタムインストールモデル ご購入時のセットアップについて

本書は「**Windows Server® 2008 Standard** または、**Windows Server® 2008 Enterprise**」（以降、「**Windows Server 2008**」と呼ぶ）の カスタムインストールモデルを ご購入時のセットアップについて 注意していただきたい内容について記載します。

<Windows Server 2008 日本語版>

- Windows Server® 2008 Standard 64-bit（x64）Edition
- Windows Server® 2008 Enterprise 64-bit（x64）Edition
- Windows Server® 2008 Standard 32-bit（x86）Edition
- Windows Server® 2008 Enterprise 32-bit（x86）Edition
- Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V™ 64-bit（x64）Edition
- Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V™ 64-bit（x64）Edition
- Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V™ 32-bit（x86）Edition
- Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V™ 32-bit（x86）Edition

対象となるモデル名、EXPRESSBUILDER のバージョンは次のとおりです。

対象モデル名	対象 EXPRESSBUILDER
Express5800/110El	5.10-005.0x
Express5800/110Ri-1	5.10-005.0x
Express5800/120Ei	5.10-003.0x
Express5800/120Gd	5.10-003.0x
Express5800/120Lj	5.10-004.0x

※対象 EXPRESSBUILDER バージョンの末尾“x”は任意の数字が入ります。

Windows Server 2008 をセットアップする前に、必ず最後までお読みください。

856-121112-264-A

目次

1 はじめに

「ハードウェアのセットアップ」（ユーザーズガイド参照）を完了してから、Windows Server 2008 やシステムのセットアップをします。

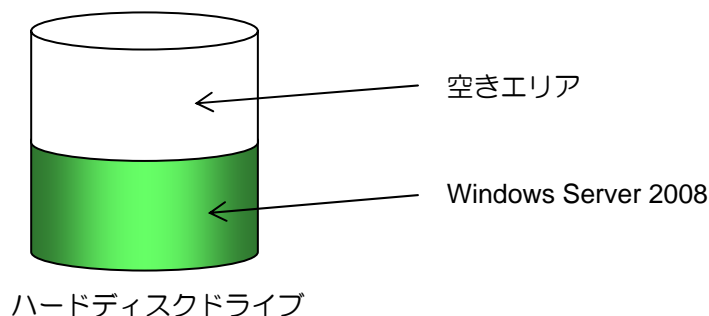
2 カスタムインストールモデルのセットアップ

BTO（工場組み込み出荷）で「カスタムインストールモデル」を指定して購入された本体のハードディスクドライブは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、オペレーティングシステム、本装置が提供するソフトウェアがすべてインストールされています。

■ セットアップをはじめる前に　（購入時の状態について）

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

本体のハードウェア構成（ハードディスクドライブのパーティションサイズも含む）やハードディスクドライブにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様によるオーダー（BTO（工場組み込み出荷））によって異なります。

下図は、ハードディスクドライブのパーティション構成について図解しています。

■ セットアップの手順

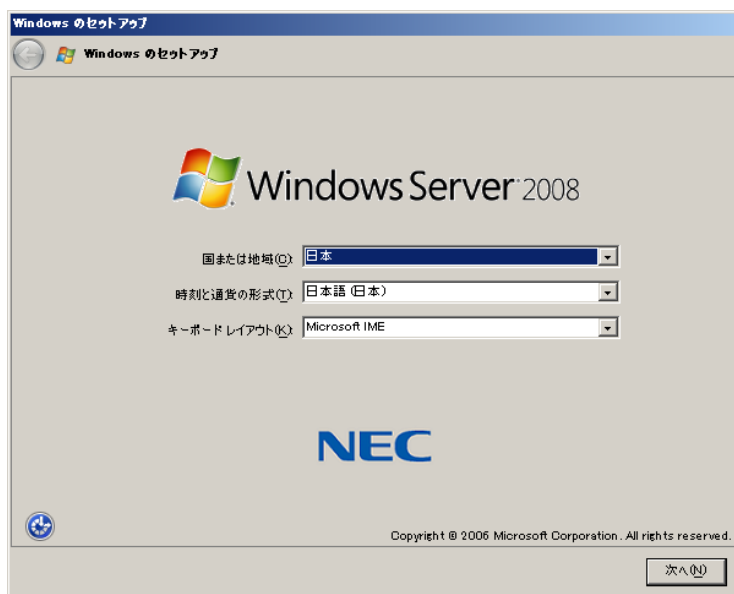
次の手順で本体を起動して、セットアップをします。

1. 周辺装置、本体の順に電源を ON にし、そのまま Windows を起動する。

しばらくすると、［Windows セットアップウィザード］画面が表示されます。
以降、画面の指示に従って必要な設定や表示内容をよく確認し、［次へ］をクリックしてセットアップを進めてください。

－ ［ライセンス契約］（使用許諾契約）画面では、使用許諾契約の内容を確認してください。

システムが起動します。

① ［Windows のセットアップ］画面が表示されたら、［次へ］をクリックする。

② Windows Server 2008 セットアップ完了後、ログオンする前に以下の画面が表示されパスワードの変更が要求されたら、［OK］をクリックする。

③ パスワードを変更し［］をクリックする。

Windows Server 2008 ではパスワードが下記の条件を満たさない場合、設定することができません。

● 大文字・小文字・数字 が混在すること

また、パスワードは6文字以上を推奨します。

④　以下のメッセージが表示されたら、［OK］をクリックする。

⑤　ログオン後「初期構成タスク」画面が表示され、ユーザー情報を設定する。

2. 「デバイスドライバ（本体標準装備）のセットアップ（６ページ）」を参照して、ネットワークドライバの詳細設定をする。

3. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、ドライバをインストールする。

4. 「障害処理のためのセットアップ（１０ページ）」を参照して障害処理のためのセットアップをする。

5. 出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をする。

インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

－ ESMPRO/ServerAgent
－ エクスプレス通報サービス*
－ Universal RAID Utility*
－ Microsoft Visual C++ 2005 SP 1 再頒布可能パッケージ（x86）
（CPU アーキテクチャに関わらず、（x86）を使用します）

上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定ま

たは確認しなければならないソフトウェアを示しています。
ユーザーズガイド「ソフトウェア編」の「本体用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

6. システム情報のバックアップ（１７ページ）をとる。

以上でカスタムインストールで購入された製品での初めてのセットアップは終了です。

再セットアップや「システムのアップデート」を再度実施する際は、NEC８番街（http://nec8.com）から「Express5800 Windows Server 2008 サポートキット」を参照してください。
ダウンロードページから「Windows2008 対応 差分モジュール」をダウンロードし、「インストール補足説明書」を参照の上、インストールを行ってください。

3 デバイスドライバ（本体標準装備）のセットアップ

本装置標準の各種ドライバのインストールとセットアップを行います。
ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについては、オプションに添付の説明書を参照してください。

- 「システムのアップデート」を再度実施する際は、「windows Server 2008 対応 差分モジュール」が必要です。NEC８番街（http://nec8.com）から「Express5800 Windows Server 2008 サポートキット」を参照してください。
- 「カスタムインストールモデル」購入時は、「システムのアップデート」は実施済みです。

■LAN ドライバと PROSet のインストール

LAN ドライバと PROSet はシステムのアップデート時にすべて自動でインストールされます。

ドライバおよび PROSet に関する操作は、必ず本体装置に接続されたコンソールから管理者権限（Administrator 等）でログインして実施してください。OS のリモートデスクトップ機能によるリモートからの設定変更操作はサポートしておりません。

○ N8104-125 を使用する場合の対応
システムのアップデート後に N8104-125 を使用する場合は下記の手順を実施後に、N8104-125 を接続した状態で「Windows Server 2008 対応 差分モジュール」にて システムのアップデートを実施し、LAN ドライバと PROSet を適用してください。

<LAN ドライバと PROSet のアンインストール手順>

1. 現在のネットワークアダプタやオプションネットワークボードの設定情報を控える。

   標準装備のネットワークアダプタやオプションネットワークボードでチーム(ネットワークアダプタの冗長化)を構成している場合はチームを削除してください。削除の前には IP アドレスなどの設定情報を控えておき、再インストール後に改めて設定してください。
   チームの削除手順は[■アダプタフォルトトレランス(AFT)/アダプティブロードバランシング(ALB)のセットアップ]に記述しています。

2. コントロールパネルより[プログラムのアンインストール]をクリックする。

3. [Intel(R) Network Connections 12.4.38.0]をダブルクリックする。
   [インテル(R) ネットワークコネクション(オプションの削除)]が表示されます。

4. ［オプションの削除］で削除項目が選択されているのでそのまま［削除］をクリックする。
   ［インテル(R) ネットワークコネクション – ソフトウェアの削除］が表示されます。

5. ［はい］を選択する。
   自動でアンインストールが開始されます。

6. ［InstallShield ウィザードを完了しました。］と表示されるので［完了］をクリックする。

7. システムを再起動する。

   以上で完了です。

■オプションネットワークボード

Express5800/110El, 110Ri-1, 120Ei, 120Gd, 120Lj の対応するオプションネットワークボードは下記のとおりです。
N8104-125 を使用する場合は前項の［○ N8104-125 を使用する場合の対応］の手順に従って設定を行ってください。
N8104-125 以外のオプションネットワークボードを接続する場合、OS のプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。

Express5800/110El の場合
［N8104-112/119/120/121/125］

Express5800/110Ri-1 の場合
［N8104-109/115/122/125］

Express5800/120Lj,120Ei,120Gd の場合
［N8104-112/119/120/121/125］

■ アダプタフォルトトレランス(**AFT**)/アダプティブロードバランシング(**ALB**)のセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでチームを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合自動的にチーム内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB) とは複数のアダプタでチームを作り、サーバから送受信パケットをチームすべてのアダプタから行うことにより、スループットを向上させるものです。この機能は AFT 機能を含んでいます。
本機能のサポート対象は、標準装備のネットワープアダプタとオプションネットワークボードです。

- Server Core を使用時、ネットワークアダプタのチーム化は対応しておりません。
- 「Windows 2008 対応 差分モジュール」にて「システムのアップデート」を実施した場合は、再起動を行った後に AFT/ALB のセットアップを行ってください。

<チームのセットアップ手順>

1. コントロールパネルより［システムとメンテナンス］配下の［デバイスマネージャを開く］をクリックし、［デバイスマネージャ］を起動する。

2. ［ネットワークアダプタ］を展開し［Intel(R)～］をダブルクリックする。

3. [チーム化]のタグを選択し、[その他のアダプタとチーム化する]にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。

4. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。

5. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。

１つのチームに含められるアダプタは２つまでです。アダプタを３つ以上含めたチーム構成での運用は未サポートです。

6. チームタイプの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバランシング」のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。

7. [完了]をクリックする。

8. [デバイスマネージャ]より、上記の手順で設定したチームのアダプタをダブルクリックでプロパティを開き、[設定]のタグを選択し、[チームの編集]をクリックする。

9. チーム内のアダプタに対しプライマリ/セカンダリ設定を行う場合、以下の操作を行う。

   ― プライマリ設定
   プライマリに設定するアダプタを選択し、「プライマリの設定」をクリックする。

   ― セカンダリ設定
   セカンダリに設定するアダプタを選択し、「セカンダリの設定」をクリックする。

   プライマリ/セカンダリ設定を完了した後、[OK]をクリックして画面を閉じてください。

プライマリ/セカンダリ設定は以下の手順で確認できます。

１）チームのアダプタのプロパティ内にある［設定］タブを表示する。

２）［チーム内のアダプタ］の各アダプタに表示されているプライマリ/セカンダリを確認する。

10. [設定]のタグのまま[スイッチのテスト]をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、[テストの実行]をクリックして実行する。

    実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。

11. システムを再起動する。

    以上で完了です。

<チームの削除手順>

1. コントロールパネルより［システムとメンテナンス]配下の[デバイスマネージャを開く]をクリックし、[デバイスマネージャ]を起動する。

2. [ネットワークアダプタ]を展開しチームのアダプタをダブルクリックする。

3. [設定]タグを選択して[チームの削除]をクリックする。

4. [チーム設定]のポップアップが表示されるので[はい]をクリックする。

5. デバイスマネージャのネットワークアダプタ配下に[チーム:チーム名]がないことを確認する。

6. システムを再起動する。

以上で完了です。

- アダプタフォルトトレランス(AFT)のチームとして指定するネットワークアダプタは、同一スイッチングハブ(L2)に接続されることを推奨します。異なるスイッチングハブ(L2)でも使用できますが、異なるスイッチングハブ(L2)に接続する場合は、すべて同一 LAN（同一ネットワーク）上に存在する必要があるため、カスケード接続にしてください。
- アダプティブロードバランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチングハブ(L2)にのみ接続できます。
- マザーボードまたはオプションのネットワークカードを交換する場合は、必ずチームを削除し、交換後にチームを再作成してください。

■ ネットワークドライバのセットアップ

<転送速度の設定>

転送速度については下記の手順に従って、ネットワークアダプタへ転送速度と Duplex モードの設定をしてください。また、IP アドレスを設定する際、［インターネットプロトコル（TCP/IP)］のチェックボックスが外れている場合、チェックを付けてから IP アドレスの設定してください。

1. コントロールパネルより［システムとメンテナンス］配下の［デバイスマネージャを開く］をクリックし、［デバイスマネージャ］を起動する。

2. [ネットワークアダプタ]を展開し、［Intel(R) ～］のアダプタをダブルクリックする。

3. [リンク速度]タブをクリックし、[速度とデュプレックス]をスイッチングハブの設定値と同じ値に設定する。

4. ネットワークアダプタのプロパティのダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

- Express5800/110El, 110Ri-1 での Onboard LAN：Intel(R) PRO/1000 PL Network Connection を使用する場合は下記の手順の操作を行ってください。
  1. コントロールパネルより［システムとメンテナンス］配下の［デバイスマネージャを開く]をクリックし、[デバイスマネージャ]を起動する。
  2. デバイスマネージャより、[ネットワークアダプタ]を展開し[Intel(R) PRO/1000 PL Network Connection]のプロパティを開く。
  3. [詳細設定]タグを選び、[受信側スケーリング]をオフに変更し、[OK]をクリックする。
  4. システムを再起動する。
  以上で完了です。

■ グラフィックスアクセラレータドライバ

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバは、出荷時にインストールされています。

■ SCSI コントローラ(N8103-75/95/107)を使用する場合

システムに SCSI コントローラ(N8103-75/95/107)を使用する場合、OS のプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。特に作業は必要ありません。

■ Fibre Channel コントローラ(N8190-127/131)を追加接続する場合

システムに Fibre Channel コントローラ(N8190-127/131)を追加接続する場合、OS のプラグアンド。プレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。特に作業は必要ありません。

4 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

■ メモリダンプ（デバッグ情報）の設定

本体内のメモリダンプ（デバッグ情報）を採取するための設定です。

重 要

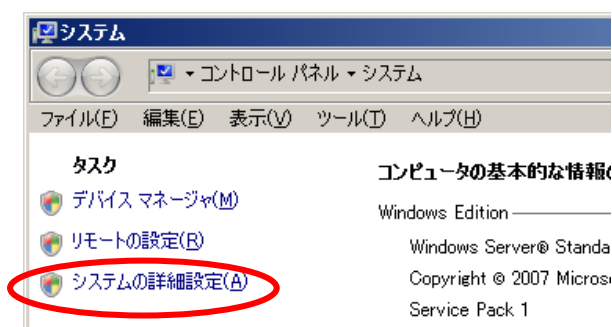
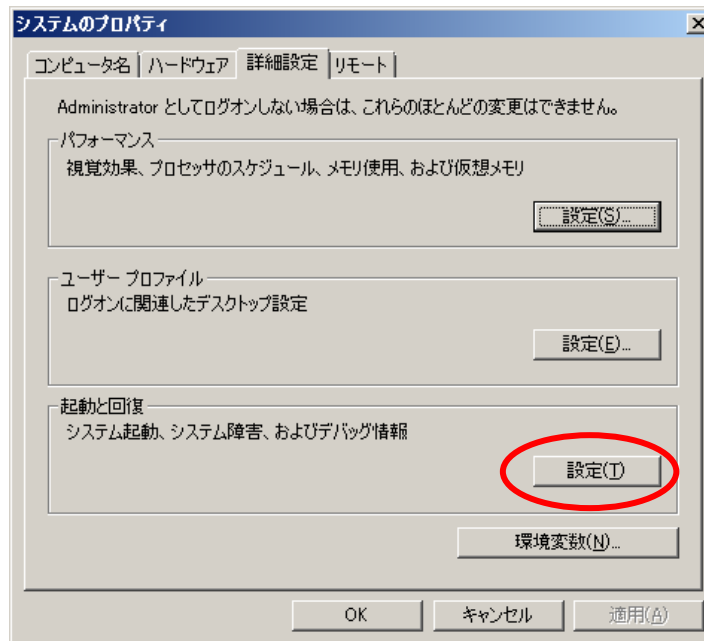
メモリダンプの注意

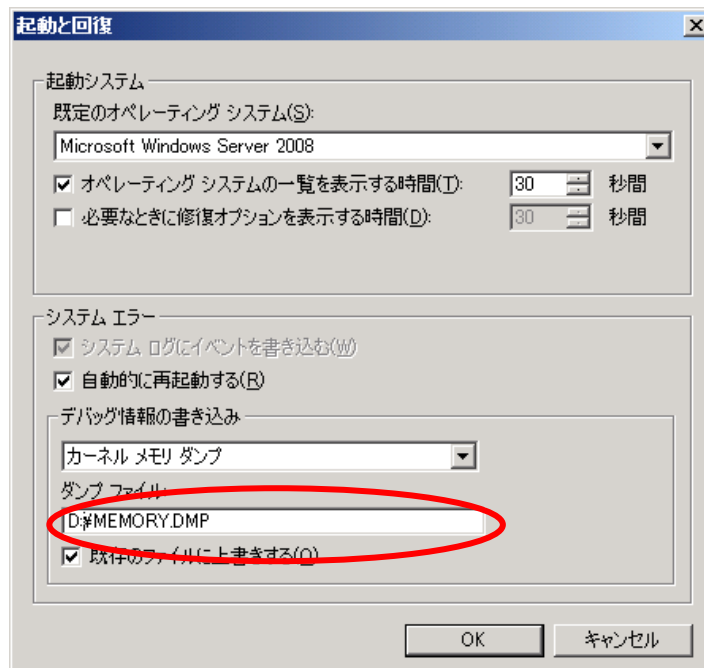
- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューから［コントロールパネル］を選び、［システム］をクリックする。

   ［システム］ダイアログボックスが表示されます。

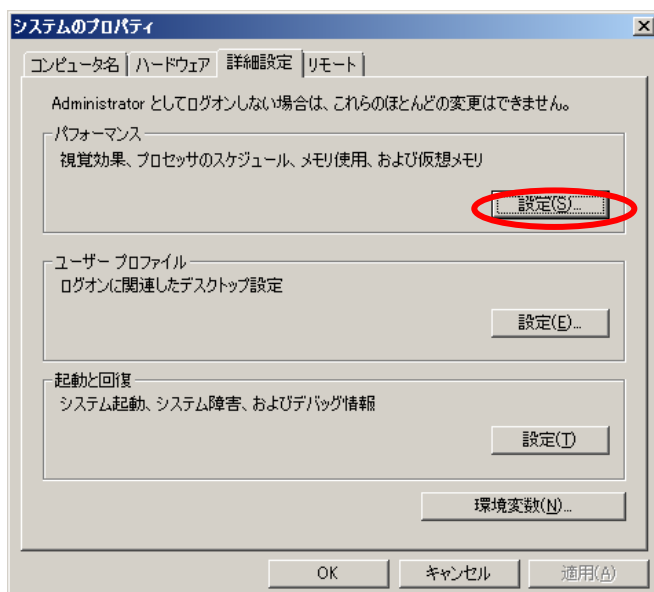
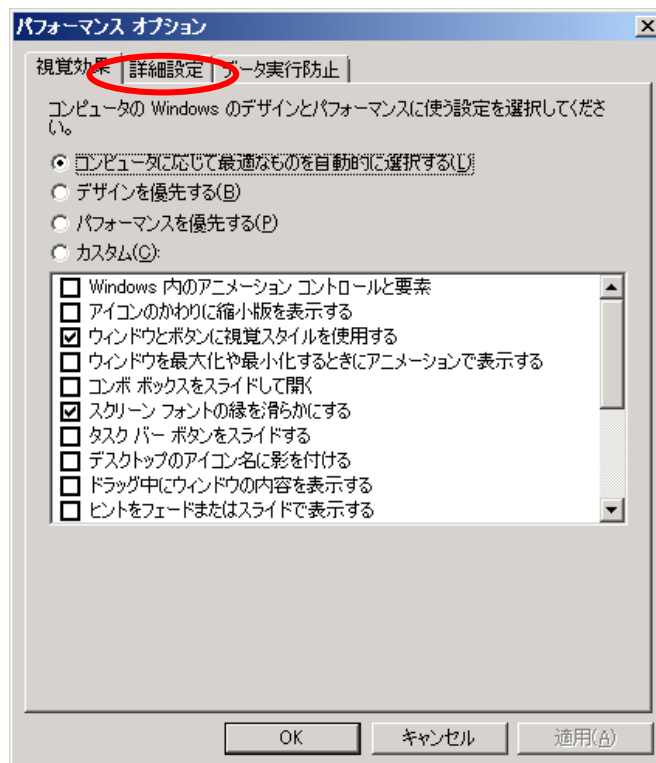
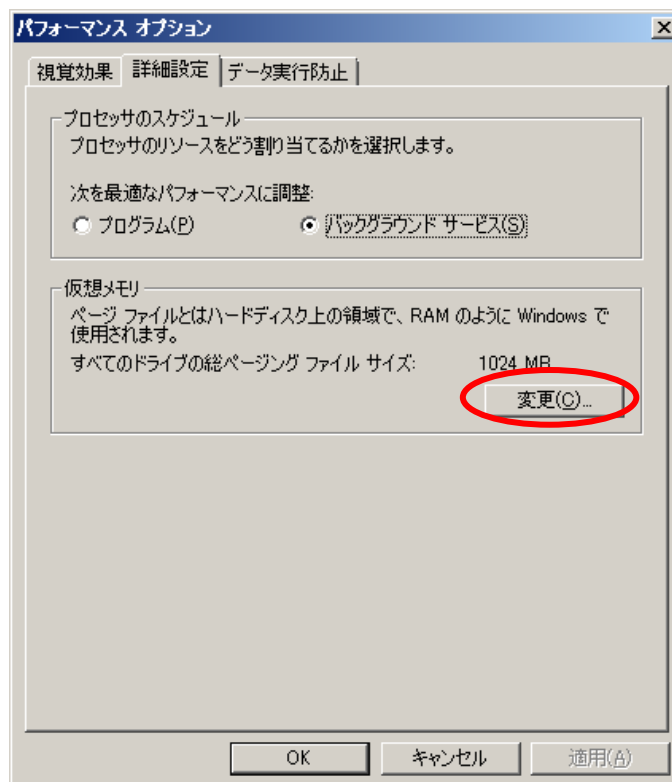
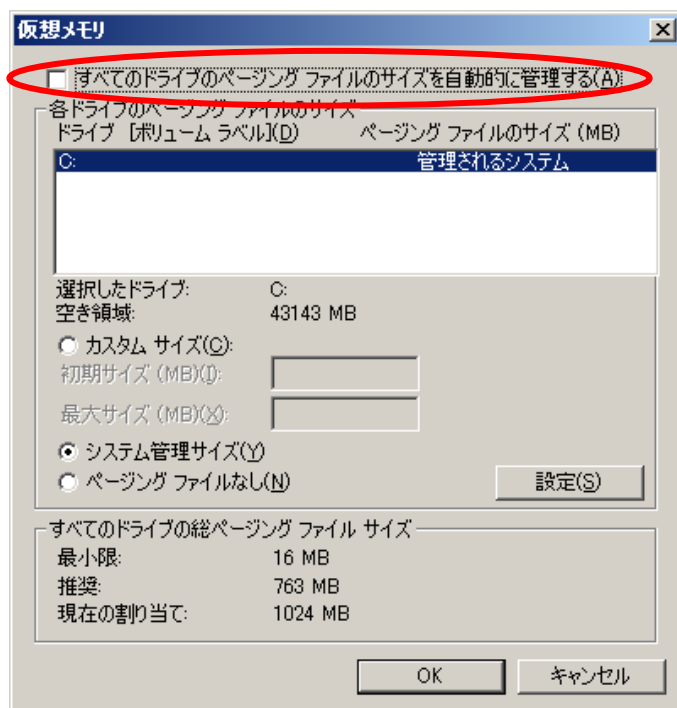
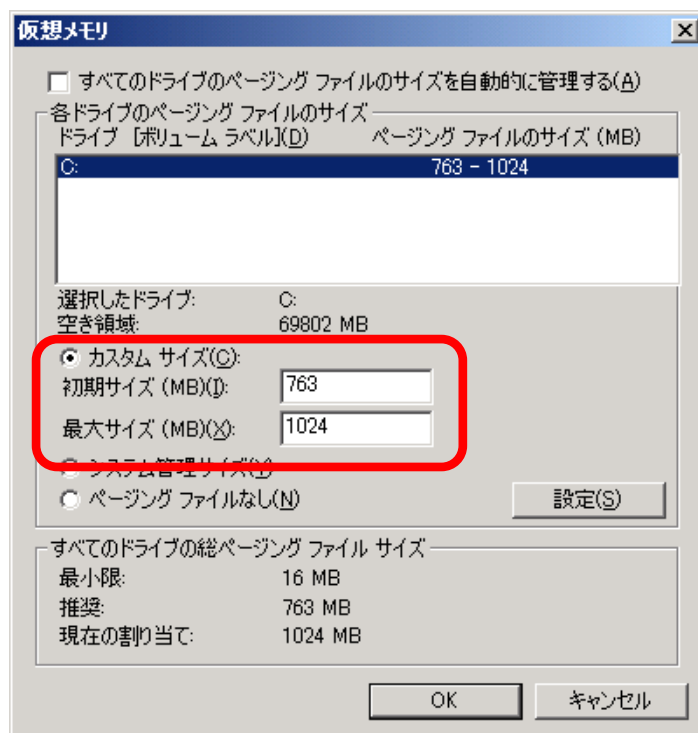
2. [システムの詳細設定]をクリックする。
   [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3.　［起動と回復］ボックスの［設定］をクリックする。

4.　ダンプファイルのテキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

＜D ドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合＞
***D:*¥MEMORY.DMP**

Windows Server 2008 64-bit（x64）Edition の場合

- デバッグ情報の書き込みは［完全メモリダンプ］を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、［完全メモリダンプ］を指定することはできません（メニューに表示されません）。その場合は、［カーネルメモリダンプ］を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+300MB 以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを［カーネルメモリダンプ］に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

Windows Server 2008 32-bit（x86）Edition の場合

- デバッグ情報の書き込みは［完全メモリダンプ］を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、［完全メモリダンプ］を指定することはできません（メニューに表示されません）。その場合は、［カーネルメモリダンプ］を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+300MB 以上（メモリサイズが 2GB を超える場合は、2048MB+300MB 以上）の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを［カーネルメモリダンプ］に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

5. ［パフォーマンス］ボックスの［設定］をクリックする。
   ［パフォーマンスオプション］ウィンドウが表示されます。

6.　［パフォーマンスオプション］ウィンドウの［詳細設定］タブをクリックする。

7.　［仮想メモリ］ボックスの［変更］をクリックする。

8.　［すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する］のチェックボックスのチェックをはずし、［カスタムサイズ］にチェックをする。

9.　［各ドライブのページングファイルのサイズ］ボックスの［初期サイズ］を［すべてのドライブの総ページングファイルサイズ］ボックスに記載されている推奨値以上に、［最大サイズ］を［初期サイズ］以上に変更し、［設定］をクリックする。

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」は搭載メモリサイズ×1.5 倍のサイズとなります。Windows Server 2008 32-bit（x86）Edition では 1 つのパーティションに設定できるページングファイルサイズが最大で 4095MB となりますので、搭載メモリサイズ×1.5 倍のサイズが 4095MB を超える場合は、4095MB で設定してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。

10. ［OK］をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。
メッセージに従って再起動してください。

■ ユーザーモードプロセスダンプの取得方法

ユーザーモードプロセスダンプは、アプリケーションエラー発生時の情報を記録したファイルです。

アプリケーションエラーが発生した際は、エラーが発生した旨を伝えるポップアップを終了させずに、以下の方法にてユーザーモードプロセスダンプを取得してください。

1. タスクバー上の空いている場所を右クリックして［タスク マネージャ］をクリックするか、<Ctrl> + <Shift> + <Esc> キーを押下して［タスクマネージャ］を起動する。
2. ［プロセス］タブをクリックする。
3. ダンプを取得するプロセス名を右クリックし、［ダンプファイルの作成］をクリックする。
4. 次のフォルダにダンプファイルが作成されます。

C:¥Users¥(ユーザー名)¥AppData¥Local¥Temp

ヒント 上記のフォルダは隠し属性となっている場合があります。フォルダが表示されない場合は、エクスプローラの[ツール] から[フォルダオプション] を選択し、[表示] タブから[すべてのファイルとフォルダを表示する]にチェックをしてください。

ユーザーモードプロセスダンプが作成されたら、上記 4.のフォルダより取得してください。

ユーザーモードプロセスダンプの取得方法の詳細は、以下の Microsoft 社のサポート技術情報を参照してください。

「Windows Server 2008 でユーザーモードプロセスダンプを取得する方法」
http://support.microsoft.com/kb/949180/ja

ヒント Windows Server 2008 では、ワトソン博士は［問題のレポートと解決策］に変更されており、従来のワトソン博士によるクラッシュダンプファイルを取得することができません。クラッシュダンプファイルと同等レベルの情報は、上記の方法で取得できます。

■ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。

●ネットワークモニタのセットアップ手順

Windows Server 2008 には、ネットワークモニタが含まれておりません。
Windows Server 2008 においてネットワークトレースを採取するためには、Microsoft 社より提供されております Microsoft Network Monitor をセットアップする必要があります。

1. Microsoft 社の Web サイトよりネットワークモニタをダウンロードします。
   Information about Network Monitor 3
   http://support.microsoft.com/kb/933741/en-us

2. ダウンロードしたファイルを実行して、インストーラを起動します。
   その後、画面の指示に従ってインストールを実施します。

ヒント

［セキュリティの警告］ポップアップが表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。
セットアップ形式を選択する画面では、［Complete］を選択してください。

3. 以上でネットワークモニタのセットアップは完了です。

ネットワークモニタを削除する場合は、［プログラムと機能］から行います。

● ネットワークとレースの採取手順

1. スタートメニューから Microsoft Network Monitor を起動します。

2. ［Start Page］から、［Create a new capture tab... ］もしくは［File］メニューの［New］を展開し、［Capture... ］をクリックします。

   新たにネットワークトレース採取用のタブが作成されます。

3. ［Select Networks］ウィンドウで採取対象のネットワークを選択します。

4. ［Capture］メニュー上の［Start］をクリックしてネットワークトレースの採取を開始します。

5. ［Capture］メニュー上の［Stop］をクリックしてネットワークトレースの採取を終了します。

6. ［File］メニューの［Save As...］を選択します。
   ［名前を付けて保存］ウィンドウが表示されますので、［Frame selection］内の［All captured frames］を選択後、適切なフォルダ、ファイル名を指定します。

既定では、以下のフォルダが指定されています。
C:¥Users¥<User name>¥Documents¥Network Monitor 3¥Captures

［保存］をクリックします。
6. で指定したフォルダにファイルが作成されます。

5 システム情報のバックアップ

システム情報のバックアップをする場合は、装置に添付の「EXPRESSBUILDER」DVD からユーザーズガイドの「システム情報のバックアップ」を参照しバックアップをとってください。

6 再セットアップ

Windows Server 2008 のセットアップをする場合は、NEC８番街（http://nec8.com）から｢Express5800 Windows Server 2008 サポートキット｣を参照してください。
ダウンロードページから｢Windows Server 2008 対応 差分モジュール｣をダウンロードし、「インストール補足説明書｣を参照の上、インストールを行ってください。

7 トラブルシューティング

Express5800 シリーズが思うように動作しない場合は、修理に出す前に次のチェックリストの内容に従って Express5800 シリーズをチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理にしたがってください。
それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。なお、ここに上げている症状は Windows Server 2008 にて新たに発生するトラブルシューティングです。その他の症状につきましては、お手持ちのユーザーズガイドを参照してください。

Windows Server 2008 のインストールを行うと、以下のようなシステムイベントログが登録される場合がある。

イベント ID ： 134
ソース ： Microsoft-Windows-Time-Service
種類 ： 警告
説明 ： 'time.windows.com,0x9' での DNS 解決エラーのため、NtpClient でタイム ソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。
15 分後に再試行し、それ以降は再試行間隔を 2 倍にします。
エラー: Hote inconnu. (0x80072AF9)

イベント ID ： 263
ソース ： PlugPlayManager
種類 ： 警告
説明 ： サービス 'ShellHWDetection' は停止する前に、デバイス イベント通知の登録解除を行っていない可能性があります。

イベント ID ： 7000
ソース ： Service Control Manager
種類 ： エラー
説明 ： Parallel port driver サービスを、次のエラーが原因で開始できませんでした: '指定されたサービスは無効であるか、または有効なデバイスが関連付けられていないため、開始できません。

イベント ID ： 15016
ソース ： Microsoft-Windows-HttpEvent
種類 ： エラー
説明 ： サーバー側認証用のセキュリティ パッケージ Kerberos を初期化できません。データ フィールドにはエラー番号が格納されています。

→ システム運用上、問題ありません。

? Windows Server 2008 のインストールを行うと、以下のようなアプリケーションイベントログが登録される場合がある。

イベント ID ： 63
ソース ： Microsoft-Windows-WMI
種類 ： 警告
説明 ： プロバイダ Ncs2 は LocalSystem アカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間 Root¥IntelNCS2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

プロバイダ IntelEthernetDiag は LocalSystem アカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間 Root¥CIMv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

プロバイダ WmiPerfClass は LocalSystem アカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間 root¥cimv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

→ システム運用上、問題ありません。

? システム起動時に、システムイベントログに次のような内容のエラー、および警告が記録される場合がある。

イベント ID ： 11
ソース ： iANSMiniport
種類 ： 警告
説明 ： 次のアダプタリンクは接続されていません。
Intel(R) ～

イベント ID ： 13
ソース ： iANSMiniport
種類 ： 警告
説明 ： Intel(R) ～ がチームで無効化されました。

イベント ID ： 16
ソース ： iANSMiniport
種類 ： なし
説明 ： [チーム名]、最後のアダプタはリンクを失いました。ネットワークの接続が失われました。

→ ネットワークアダプタでチームを設定をした場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LAN ドライバの動作上問題ありません。

?

Windows Server 2008 のインストールを行うと、次のイベントがシステムイベントログに記録される場合があります。

イベント ID ： 10
ソース ： VDS 動的なプロバイダ
説明 ： ドライバからの通知を格納するが、プロバイダに失敗しました。
仮想ディスク サービスを再起動する必要があります。 hr = 80042505

→ 詳細については次の Microsoft 社の Web サイトを参照ください。
http://support.microsoft.com/kb/948275/ja